

## 北上するシダ植物

植 田 雅 浩

植物の生育は、環境から大きな影響を受けています。例えば暖かい地域と寒い地域とでは、生育する植物が異なります。降水量の多い地域と極端に少ない地域でも同様です。これらは、それぞれの種の生育可能な条件が異なるからです。

最近では地球温暖化という言葉があまり耳にしません。少なくともここ数十年のデータは、気温の上昇傾向を示しています。そうすると植物は、当然影響を受けます。しかし、暖かくなったからといって急に植物の種類が変わることはありません。それは、分布拡大には時間がかかりますし、植物相の変化も徐々に進行しているためです。ところが、シダ植物に関しては既に変化が現れているようです。

シダ植物は、花の咲く植物と違い、種子ではなく胞子を散布してなかまを増やします。胞子は多くの種子と違ってごく小さく、より広い範囲に散布されます。例えば寒冷な地域に生育できない種類の胞子も県内に散布されているはずですが、しかし、気温が上昇すれば、県内でも生育可能な地域になります。こうして胞子から配偶体ができ、やがてシダ植物の本体である孢子体ができます。このように近年の温暖な気候の影響で、県内に現れたとみられるシダ植物を紹介します。

### ナガバノイタチシダ

本種は、当館友の会シダ植物研究グループと協働で行ってきた日高市のシダ植物調査で2005年に発見しました。この調査をとおして、分布状況がわかってきました。今のところ、日高市を含めた



ナガバノイタチシダ (日高市で撮影)

5市町に生育地があるため、本県に定着したと思われる。これまで太平洋側では、神奈川県や千葉県での生育が報告されていました。本種が含まれるオシダ属には似た種類が多いため、見落とししていたのかも知れません。実は、日高町史 自然史編(1991)の調査の際、本種と思われる個体を見かけています。しかしまだ幼植物でしたので、まさか本種ではあるまいと片付けてしまいました。きちんと調べておけば良かったと反省しています。

### クルマシダ

本種は、葉長80cmにもなるチャセンシダ属のシダ植物です。2009年に日本シダの会の観察会で発見されました。近県では神奈川県内の2ヶ所から各1個体の生育が報告されています。本県でも1個体が生育するだけです。今のところ、これが北限のようです。この個体は、胞子を散布していますが、近くに幼植物は見られません。これから胞子で増え、定着していくのか注目しています。



クルマシダ (比企郡で撮影)

この他にも、今まで県内で生育が確認されていなかった暖地性のシダ植物が、いくつか見つかっています。また、本県では生育が知られていませんが、より北の県で採集記録がある種類もあります。そのような種もいずれ県内のどこかで発見できることでしょう。これからも調査を続けて埼玉県のシダ植物相の解明を進めていきたいと思えます。

(うえだ まさひろ・担当課長)